

一言メモ

筑西市ホームページより

「あけのひまわりフェスティバル」

筑波山をバックにした約44haの田畑に八重ひまわり、黄色やオレンジ色の黄花コスモス及び陸前高田のひまわりなどを栽培。特に八重ひまわりについては、ご覧いただく面積としては日本最大級となります。約100万本の花が辺り一面を埋め尽くす光景は壮観です。



筑波湖(へら鮎釣り)

国香ゆかりの地



東は開けた田面と筑波川(桜川)をへだててつくばの霊峰に対し、西は大森林地帯、更に西には鳥羽の淡海が漫々と水をたたえている。国香はこの地に荘園をもち、その中心地に居館を構え、村人達の生活をより豊かにしようと開発勸農に力を注ぎ、率先して開墾の先頭に立ち指揮をとりました。苦勞の甲斐あって、田畑は徐々に広がり、このあたり一帯が美しい水田になりました。

平成28年12月 筑西市教育委員会

筑西市東石田は、平国香の本拠地として居館があったとの伝承が残されています。『将門記』には「石田荘」と記され、平将門の「石井の営所(坂東市岩井)」「鎌輪の宿(下妻市鬼怒)」、平良正の「水守の営所(つくば市水守)」、平良兼の「服織の宿(桜川市真壁)」などとともに、平将門の乱の舞台となりました。

国香は、桓武天皇のひ孫高望王の嫡男で、常陸大掾・鎮守府将軍(筑波郡、真壁郡、新治郡)に任ぜられ、常陸平氏の祖となりました。承平5年(935)、甥の将門との戦いに敗れ、現在、この地には国香の墓と伝えられる石塔が残されています。

平成28年12月 筑西市教育委員会

